

第3学年 社会科学習指導案

日 時 7月11日(土) 1校時

対 象 3年1組 32名

授業者 奈良 諒

1 単元名「わたしはスーパーフゾクの店長! ～店ではたらく人びとの仕事～」

2 校内研究との関わり

本単元では、地域に見られる生産や販売の仕事について、学習問題を追究・解決する活動を通して、販売に携わっている人々が行っている工夫や努力、その背景にある理由に迫る姿を育てることを目指す。消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、見学・調査したり資料で調べたりすることで、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉えられるようにする。そして、販売の仕事に見られる工夫について、表現する活動を通して、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえながら売り上げを高めるよう工夫して行われていることを、資料を時系列で並べることで、児童が変化と工夫の関係を理解できるようにする。

本時では、「自律に向かう学び」のうち、㊦子どもが選択する場面が生まれる、㊧児童と教師で調整する、の段階に位置づける。さらに、店内図を作る際に児童が工夫と考えた点を認めること、一人ひとりの考えの違いを比較・共有させることを通して、㊨認知・思考の多様性を生かした学びにつなげたい。

3 本時の授業

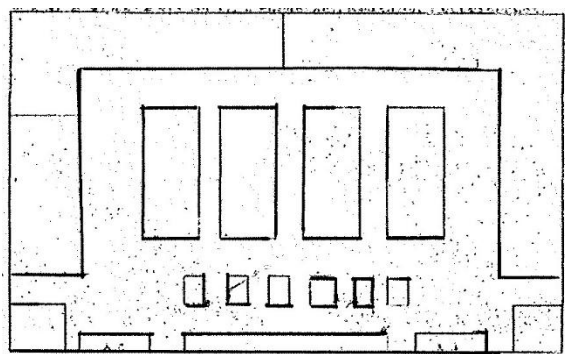
(1) 目標

スーパーマーケットの店内図を作成、比較する活動を通して、作った店内図の共通点や相違点に気づき、商品配置における販売側の工夫をワークシートにまとめることができる。

(2) 展開 3/11

学習展開	・教師の働きかけ ◎評価 ☆支援 □校内研究との関わり
1 前時の学習の想起 「スーパーに行く人が多いことが分かった。」 「スーパーは色々なものが売っている、大きな通りの近くにある、安いなど理由でよく利用されていた。」	・これまでの学習（どのような店によく行くか、どのような利用の仕方をしているか）を振り返る。
2 問題意識の高まり 「肉や魚などの商品が細い通路にある。」 「米がレジから遠いところにある。」 「これでは買い物がしづらいのではないかな。」	・教師が演技（自身の店の売り上げが悪いことを伝える、消費者が購入しづらい商品配置を提示するなど）することで、児童の意欲や関心を高め、めあてにつなげる。
3 めあての設定 お客さんが商品を買やすい店内をつくろう。	

4 店内図の作成



5 比較・共有

「わたしは肉や魚などの商品を広い通路に置きました。そうした方が、たくさんのお客さんに見てもらえて、買ってもらえと思ったからです。」

「わたしは重さのある商品をレジの近くに置きました。そうすることで、重いものをレジまで運ぶ苦勞が減ると思ったからです。」

「わたしは調味料をひとまとめにしてする工夫をしました。そのコーナーに行くだけで、お客さんが必要なものを探しやすくなると思ったからです。」

6 まとめ

わたしは、
鮮度が重要なものをまとめる。
肉と魚は、生と総菜をセットにする。
食材の近くに調味料コーナーをつくる。
という工夫をしました。この工夫をすると、
まとめて冷やせるので新鮮さを保つことができる。
料理をするか、総菜を買うか、考えやすくなる。
料理に必要なものをすぐ見つけることができる。
と考えたからです。

・店内図の枠があるワークシートと複数のチラシ広告を用意する。

◎販売側の立場から工夫や意図を考え、店内図を作ることができる。

【思考・判断・表現】ワークシート、発言

□児童の考えや経験、実生活をもとに、店内のどこに、どのような商品を配置するかについて考えられるようにする。

〔自律④〕

・グループで自分が作成した店内図を見せ合ったり、工夫を説明し合ったりすることで、共通点や相違点に気付かせたい。

☆共通点や相違点に気付くことができない場合には、肉や魚、野菜、冷凍食品などの商品の配置に目を向けてみるように促す。

・共通点や相違点についてまとめたホワイトボードを黒板に貼ったり、児童の店内図を大型テレビで提示したりして、話し合われたことを全体が視覚的にも捉えられるように支援する。

□児童の工夫とその意図を、全体にも問い返しながらか共有し、以下の点を中心に価値づけていく。

①店内図の比較から意味のある違いを見出したこと。

②販売側の意図と結び付けようとする考え。

〔多様性②〕

・下線部を空欄にしたまとめを提示し、児童が販売側の意図を自分の言葉でまとめられるようにする。

◎商品を買いやすくなると考えた工夫とその意図を、まとめることができる。

【思考・判断・表現】ワークシート、発言

・児童が考えた工夫が実際の店舗でも行われているのかについては、今後の授業や校外学習等で確認していくことを伝える。